

2023 平和ノサップ集会アピール

本日、私たちは北方領土返還運動の原点の地、納沙布岬に全国から結集した。

日本固有の領土である択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島からなる北方四島が、旧ソ連により不法に占拠されてから、今年で 78 年が経過したものの、未だ返還の先行きは見通せない。

^{ふるさと}故郷・北方四島を追われ、戻ることも、自由に訪ねることもできない元島民の方々は、平均年齢が 87 歳を超えた。終戦時に暮らしていた 1 万 7,291 名の方々は、現在ではその 3 割程度まで減少した。残された時間は決して長くない。

こうした中、2022 年 2 月、ロシアがウクライナへの軍事侵略を開始し、いま現在も、終結の兆しすら見えない。この影響を受け、日露両国間の関係は 1956 年の日ソ共同宣言締結にもとづく国交回復以降、最悪の状況に置かれている。ロシア政府は日露間の平和条約交渉の中止を一方的に通告し、北方四島ビザなし交流の中止も伝えてきた。第二次世界大戦以降、日露両国、さらには国際社会が築いてきた平和や秩序を踏みにじる暴挙を、私たちは決して許さない。

一方、行き過ぎた軍備拡張を求める声に対しては、自制と冷静な国民的議論を求める。日本は、平和を希求する国民・国家として、国際協調主義に立ち、アジア・太平洋諸国と連携した地域の安定と世界平和の実現に向けて、積極的に役割を果たす必要がある。日本国政府には、日露関係の改善、そしてその先にある北方四島の一括返還実現に向けて、対ロシア外交交渉に粘り強く臨むことを求める。

平和で安心な社会は、私たちが暮らし、働く上で必要不可欠である。

私たちは、北方領土問題や元島民の方々の想い・願いを自らの課題として心に刻み、平和運動の輪を広げていくことを、ここに確認し合う。

そして、700 万連合の力を結集し、北方四島の早期一括返還と日ロ平和条約の締結による真の平和の実現に向けて、関係諸団体と連携して日本国政府を後押しする。北方領土問題が解決するその日まで、粘り強く運動を継続していくことを、ここに宣言する。

2023 年 9 月 10 日
連合 2023 平和ノサップ集会